

北島 一夫（きたじま・かずお）

1、プロフィール

詩人。詩誌「壺年」の創刊同人。詩誌「塔」を刊行。北詩人会を結成。風の樹社を創立、詩誌「偽画」を主宰する。定本詩集『生涯の歌』で第7回青森県文芸賞を受賞。

<生没>

1925(大正 14)年7月7日～2012(平成 24)年4月 21 日

<代表作>

詩集『生涯の歌』、

詩とエッセイ『統計調査員余話』、

定本詩集『生涯の歌』

<青森との関わり>

弘前市に生まれる。戦時中、弘前青年学校に通う。戦後、風の樹社を創立する。弘前ペンクラブ会員。

2、作家解説

北嶋(筆名 北島)一夫は大正 14 年7月7日、弘前市品川町に生まれる。父は大正9年に、八百屋を開業した。そして昭和 12 年 11 月 11 日に 41 歳で他界した。小学5年生の時であった。兄弟3人の長男であり、市内に年季奉公に出て家計を支えた。

戦時中、弘前に開校された青年学校に通い、講師をしていた一戸謙三と出会う。同年代の桜庭弘らと回覧誌「雑草」を出版。昭和 20 年に千葉県館山の洲崎海軍練習航空隊に入隊するも終戦を迎え、帰郷して家業の青果業に従事する。翌年、植木曜介が主唱して創刊した「壺年」に同人として参加。村 次郎とも交流している。また石黒英一らと「塔」を出版。22 年 12 月に一戸謙三・高木恭造・植木曜介らと発起人となって北詩人会を結成し、「北リーフレット」(月刊)と「北」(季刊)を創

刊する。23 年に風の樹社を創立、詩誌「偽画」を主宰する。20 年5月 29 日にルソン島で戦死した日幌草太（本名 佐藤喜代衛）の遺稿詩集『蒼い記録』を 24 年 11 月 20 日に風の樹社から上梓する。後記に「草太在りし日の姿を思ひ浮べながら纏めた」と心情を吐露している。28 年に日幌草太の筆写本に基づき、高木恭造の『まるめろ』再販本を棟方志功の装幀で刊行した。また昭和 40 年に出版された竹内二郎の詩集『旧約』の企画、46 年に刊行された『植木曜介詩集』の編集委員として尽力した。

昭和 40 年3月 1日に詩集『生涯の歌』（26 編）を津軽書房から限定 300 部で刊行する。平成 19 年 11 月 1日に詩とエッセイ『統計調査員余話』を北方新社から刊行。家業の傍ら昭和 22 年から統計調査に携わり、大内兵衛賞（平成 19 年）等を受賞。弘前市統計協会名誉会長等を歴任。22 年 11 月 20 日に定本詩集『生涯の歌』を風の木社から刊行。詩集「生涯の歌」に補遺を加えた定本である。表題は村 次郎、挿画は佐藤麻古杜で、愛惜と追慕の念が込められている。第7回青森県文芸賞を受賞。

平成 24 年4月 21 日、87 歳にて永眠。

3、資料紹介

○『定本詩集 生涯の歌』

図書

2010（平成 22）年 11 月 20 日

210 mm × 150 mm

昭和 40 年に刊行の詩集『生涯の歌』に補遺を加えた定本である。詩情にあふれ、純粋な精神性を感じる。「貧しいなかに日の美しい願ひを生きることが大切なのだ（父の鳩笛）」は、現在の私たちに向けられているようだ。第7回青森県文芸賞受賞。